

牧羊ひろば



神戸大石教会 教会学校

●子どもたちを主のもとへ

神戸大石教会では、初代牧師堀江博先生以来、児童伝道の重荷を持って教会学校の働きを継続してきました。一時は百人以上の子どもが集まり、活発な活動が行われていました。しかし、近年は子どもが減少し、一人も子どもの来ない時代が十年間続いていました。そのようなときにも、一人の教師が毎日曜日にメッセージを準備して待機し、祈っていました。牧師先生ご夫妻、教会員一同も教会学校復活のために祈っていました。

5年前の二〇一一年に金井望牧師一家が赴任し、生徒が4人に増えました（全員金井家の子どもたち）。これが核となつて、生徒、教師が加えられ、新しいスタートとなりました。

平日には、お友達がたくさん教会に遊びにくるようになります。役員会でも、教会で子どもたちが遊ぶこと

を了承してくださいました。広い所で、大勢で安心して遊べるということで、どんどん集まってきました。言葉使いの乱暴な子、いじわるをする子などもいて、大人の側の忍耐が必要でした。その中から、何人かが日曜日の教会学校にも出席してくれるようになりました。

ある時、一人の女の子が熱心にマンガ聖書物語を読んでいるので、ふと感じるところがあり、教会学校に誘ったところ、続けて来てくれるようになりました。その子は6年生の夏に兵庫教区バイブル・キャンプに参加し、「洗礼を受ける」と決めて帰ってきました。まだ教会に「はじめから一年もたっていなかったのです、初めは「早いかもしれない」と迷いました。しかし、祈っていると、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない」(マルコ10・14)とのみことばが響いてきました。

洗礼準備の学びを経て、いよいよ洗礼の日が近づいてきたころ、洗礼の承諾をいただくために、お母様に教会に来ていただきました。話をしていくうちに、なんとそのお母様が、子どもの頃、大石教会の教会学校に通っていたということが分かり、大変驚きました。

お母様は、大石教会のことを知っておられたので、お子さんが教会学校に通い始めた時から何の心配もなく送り出してくださったとのこと。神様の不思議なお導きに感謝しました。



2012年 子どもクリスマス会 ゲーム

牧師の子どもたちが大きくなるにつれて、CSの人数も減っていくことが予想されます。今、種まきをしなければという思いがおこされ、地域の子どもたちが集うことを願って、子どもクリスマス会を開きました。

初年度は、おそろおそろ小学校の前で100枚の案内を配りました。子どもたちはみんな喜んで受け取ってくれました。そして当日、30人分のプレゼントを用意していたのですが、なんと36人の子どもが集まってくれました。いつも教会学校に来ているお友達に、「あともっといいプレゼントを用意してあげるから、今日はがまんしてね」と耳打ちするという、うれしい悲鳴の日でした。

それ以降、毎年楽しみに来てくれる子どもや、孫を連れて来てくれるおばあちゃんもおられます。小学校前の案内配りは200枚に増やし、来てくれたお友達には、次の年に案内はがきを送っています。案内は、絵の得意な教会学校の生徒に描いてもらっています。ハンドライティングでかわいらしく、カラフルで、子どもたちも受け取りやすいようです。

クリスマス会の内容は、Ⅰ部は礼拝、Ⅱ部はゲームなどのお楽しみ会です。Ⅱ部の司会は中学生にお願いしています。

スタッフにとっては一年で一番大変なイベントですが、主が背中を押してくださり、ここまで祝され、感謝しています。



2011年 子どもお楽しみ会 木工の作品作り

その他に、年1回のお楽しみ会を夏に企画しています。あまり背伸びをせず、信徒の方の得意分野を生かしていただいで、できることを考えています。これまでに

- ・ 流しそうめんと木工の作品作り
 - ・ コラージュ（貼り絵の作品作り）
 - ・ アイスクリーム・パーティー
- ・ 楽しいお茶の会（お茶の点^たて方を教えていただき、和

菓子をいただく）などを行いました。夏のお楽しみ会、冬のクリスマス会がリンクして、リピーターも増えてきました。信徒の孫、ひ孫の参加もあります。



2014年 アイスクリーム・パーティー

半年ごとにあつという間に成長していく子どもたちを見てみると、小さな働きであっても、続けていくことの大切さを感じます。



2015年 楽しいお茶の会

クリスマス会やお楽しみ会には、たくさんの子どもたちが集まってくれますが、日曜朝の教会学校にはなかなかつながりません。それでも、希望をもって毎回アピールし、祈っています。

現在は、日曜朝9時30分から10時20分まで子どもも礼拝と分級をしています。生徒数は幼小・中高生を合わせて3〜6名、スタッフは3名です。

礼拝では、生徒が司会・献金・お祈りなどの奉仕を交

代でしています。分級の内容は毎月ある程度固定し、以下のように行なっています。信仰の成長と交わりのために有意義な時間となり、且つ、毎回分級の内容を考えることがスタッフの負担とならないためです。

・1週目 祈りのリクエスト（一人ひとりが祈ってほしいことを書いたものを集めて1枚の表にし、一か月祈り合う）

・2週目 お楽しみ（ゲームやおやつなど）

・3週目 暗誦聖句

・4週目 イラスト描き（子どものイラストを用いてオリジナルみことばカードを作成）

子どもたちも楽しんで取り組んでくれているようです。やはりゲームやおやつは、とても喜びます。

教会学校スタッフは、社会人として忙しい生活を送りながらも、主の召しに応じて時間を献げてくださる、若い兄弟方です。

月1回第4主日午後教師会で、研修と話し合いの時間を持っています。

研修では、まず『実を結ぶ教会学校』（金井由信著、金



2013年 洗礼式

井望編著)を少しずつ読んで、分かち合いをしてきました。これが終了したので、次は『救霊の動力』(ウィルクス)を読み進め、ほぼ終りに近づいています。

スタッフ同士で、ありのままの信仰生活の悩みを分かち合い、励まし、祈り、交わりの時間となっています。特に若い兄弟同志で共感できる部分が大きいです。教会学校スタッフ研修の働きが、そのまま教会の将来を支える柱としての次世代訓練につながっているのではな



2012年 須磨海浜水族園 遠足

いかと感じます。

大石教会では、「継続は力なり」「無理をしない」「与えられるものを生かす」をモットーに、これからも主の助けをいただいで、奉仕していきたいと願っています。どうぞお祈りください。

(神戸大石教会牧師夫人 金井その枝)